

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日	平成 28 年 3 月 1 日		
所属学部・研究科	文 学部/研究科	修士 1 年次 (留学開始時点)		
留 学 先 大 学	テュービンゲン大学 (国名: ドイツ)			
所属学部・学科等名	ドイツ学科			
在 籍 身 分	交換留学生			
留 学 期 間	平成 27 年 10 月 11 日 ~ 平成 28 年 2 月 13 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: 学生ビザ			
	ビザ申請先: テュービンゲン住民課 (Bürgeramt)			
	取得方法, 提出書類: パスポート、奨学金受給証明書または銀行の残高証明書、入学証明書、顔写真2枚 テュービンゲンの住民課へ行き、届出。10月頃正規の入学証明書を持って再度住民課へ。約1か月後、カードが出来上がるので受け取りに。			
	手続きに要した日数: 2, 3か月			
その他必要な事前手続き	学生寮の申込、スタートコースの申込。 学生寮については大学から案内メールが届くが、スタートコースは案内が特になかったの自分で大学ホームページにアクセスして申し込みをした。			
出国年月日	平成 27 年 9 月 4 日			
経 路	羽田空港→フランクフルト空港→シュトゥットガルト空港→テュービンゲン駅(バス)			
現地での出迎え	無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	9月4日~、3週間 事前申し込み必要。 初日にテストが行われ、語学力別で4つのクラスに割り振られる。文法の復習、メールの書き方、プレゼンテーションの仕方等を習う。2週目の週末には日帰りの研修旅行があった。Tutorium と呼ばれる授業補助の時間で、各種必要書類の準備を手伝ってもらえる。			
帰 国 年 月 日	平成 28 年 2 月 26 日			
経 路	シュトゥットガルト→ロンドン→羽田			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	645,000	円	
	内訳	渡航費	200,000	円
		保険料	70,000	円
		教科書代(学費)	5,000	円
		宿舍費	45,000×6=270,000	円
		食費	100,000	円
		その他 (費)		円
(費)		円		
(費)		円		

3. 授業について			
2015/16年 前 学期	10 月 11 日	～	2月 13 日
年 学期	月 日	～	月 日
年 学期	月 日	～	月 日
年 学期	月 日	～	月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	留学生クラスではレベルや伸ばしたい能力(Sprechen, schreiben, hören 等)に応じて選択可能。入学書類とともに全授業が載った小冊子が届くので、シラバスを参考に授業登録を行う。現地学生クラスにも登録可能。ほとんどの学部は campus というウェブページ(広大で言うもみじ)を通して履修登録を行うが、日本学科などでは例外もあるので、学部オリエンテーションなどで確認しておくこと。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合、所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること		
学術面に関する後輩へのアドバイス	私は留学生クラス3つ、現地クラス3つに出席したが、日々の予習復習は日本とは比べられないほど大変だった。聞き取りと語彙力は理解度に大きく関わるので、渡航前に可能な限り身に着けられるとよいと思う。		
4. 生活等について			
(1) 留学先の住居について			
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()		
住居の広さ	約 m ²	同居人の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (4 人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()		
住居費	1ヶ月当たり 350 ユーロ	(現地通貨)	約 45,000 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()		
留学先での住居全般に関するアドバイス	壁が薄いので、同居人が夜遅くまでパーティーとしているなどの騒音がストレスとなる。静かにしてほしいときははっきり言う。一方で、ドイツ人は午前中にシャワーを浴びる習慣があり、また、私のフラットメイトは普段は比較的早めに就寝する人たちだったので、深夜にシャワーを浴びるときは気を使った。私のフラットでは10月に掃除当番決めや共有物の購入に際してきっちりした決まりがあった。		
(2) 医療について			
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった		
入院した場合	により 日入院		
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった		
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()		
掛け金は	年間 円 補償額 死亡 円, 入院1日 円 その他 ()		
留学前後での予防接種 の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		

有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名		
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由：	
留学先国の医療事情（日本と比較して）		
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	水道水は硬水なので、お腹の弱い人は飲まないほうがいいかもしれない。食事も日本とは異なり、初めのころは常に胃もたれ・多く食べなくてもお腹が張る状態だった。昼間は暑くても夜は冷え込むので温度調節が難しい。自分の体に合った薬をいくつか持参していくこと。	
(3) 危険を感じた地域、状況		
テュービンゲンは小さく治安のいい街だが、移民の流入などでここ数年事情が変わってきている様子。夜、駅前のスーパーの出入り口付近は、常に若者が座り込んで飲酒しているなど、近くを通るのは少し怖かった。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 29 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 29 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	就職の予定。	
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	渡航前にとれる単位はすべて取る。7月、8月の時点でテュービンゲン大学の留学生クラス一覧が送られてくるので、あらかじめ帰国後にどの単位とどの単位を互換するかを考えておくことができる。シラバスまでは見られないのと、定員などの事情で希望のクラスが取れない可能性は十分にあるので、あくまで参考程度ではある。	
6. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等		
書籍、サイト名	詳細(出版社、URL等)	コメント
Szenen 場面で学ぶドイツ	三修社	2年時の教科書。実用表現がたくさん載っている。
僕のドイツ留学!	http://ore-germany.com/	ドイツ生活のイメージが具体的につかめる。
ドイツニュースダイジェスト	http://www.newsdigest.de/newsde/	日本語でドイツ最新ニュースがみられる。ドイツ人は時事の話がかなり好きなので話題作りに良い。
7. 自由記述(後輩へのアドバイス等)		
日本語の通じない土地で、初めてのことで、不安だらけだと思います。でも友人ができれば大丈夫です。気軽に質問ができ、助けを求めることのできる人がいれば、とても気持ちが楽になります。私の留学は、周囲の人に恵まれたからこそあったものだと感じます。ドイツ人、他国からの留学生、日本人留学生等、そこでしか会うことのできた人達との出会いを一番に大切にしたいと思います。		

学習の概要に関するレポート

現地到着が9月4日、土日を挟んでオリエンテーションコースに参加した。「スタートコース」と呼ばれているものだ。全体説明の後、クラス分けのため筆記試験と口頭試験を受ける。私はB1~B2レベルと思われる第3クラスに振り分けられた。クラスごとに担当教員とチューターが一人ずつ着く。9時~12時半は教員による語学の時間、2時半~4時ごろまではチューターによる学期前準備や生活に関するアドバイスの時間だった。スタートコース中は、教員、チューター、学生も関係なく皆duを使って話してよいことになっていた。

クラスごとに内容は全く異なるのだが、私のクラスでは、語学指導の時間は文法の総復習とドイツ語でのプレゼンテーションの練習を半々で行った。

その日どんな内容をするかは当日までわからず、その日その日に配布されたプリントに取り組む。予習よりも復習を重視し、一日の始まりは必ず前日の授業のおさらいからだった。文法の復習といっても日本での学習方法とはかなり異なって、常にテーブルごとのディスカッションや2人1組のロールプレイングを通しての指導だった。積極的にしゃべることを求められるが、課題の聞き取りもままならず今何をすればいいのか把握することから苦勞した。先生も他の留学生も(私にとっては)かなりの早口、板書はほとんどなし、あっても文字が読み取れない等、常々かなりの集中力が必要だった。こういうことはスタートコースだけでなく冬学期受講した全ての授業でも同じだった。

オリエンテーションに過ぎないのにも関わらずかなり苦勞をしたが、この3週間の間でかなりドイツ語をブラッシュアップすることができ、とっくの昔に忘れてしまっていたような文法事項を思い出すことができた。実のところ、院生にもなってまた不規則変化表を覚えなおすことになるとは、また、覚え間違いや勘違いが少なからずあったとは思っていなかった。

冬学期が本格的に始まってからは、図書館に入りびたりの毎日だった。私は留学生クラス3科目と現地クラスの3科目を履修した。留学生クラスは1学期につき最大3科目の履修が可能で、B1/2以上の語学力があると認められればAufbauという基礎語学コースを取らずに、自分が興味を持った他の授業にその枠をあてることができる。私は発音・会話、文学短編演習、ドイツ近現代史を履修した。

私は中世高地ドイツ語を勉強してみたかったのでゲルマニスティックで開講されるプロゼミナールにも登録をしたが、配布資料も教科書も専門的なドイツ語ばかり、とても難しく大変だった。担当の先生は、留学生であれば面接による会話力のテストか、A4一枚程度のエッセイを提出すれば単位を受け取ることができるという説明があったが、私はせっかく勉強したことの成果をきちんと確かめたかったので、ドイツ人学生達と同じ筆記試験を受けた。このクラスには私以外にも2人アジア人学生がいて、一人は交換留学生、もう一人はテュービンゲン大学ゲルマニスティックに正規に入学している学生だったが、この2人の勤勉さと猛勉強ぶりには大いに刺激を受けた。また見た目としても目立つためか、同じクラスのドイツ人学生も「授業難しいでしょ、困ったら私に聞いてもいいんだよ」と声をかけてくれたりした。中高ドイツ語のクラスはさすがに本場であるだけあって、かなりの人気があった。別日程で行われるが内容的にはプロゼミナールと連動したVorlesung(講義)はいつも大教室が満杯で、早めに来られなかった日などは席の確保に困った。それだけに内容は専門的で深いものであった。大講義室での授業は、日本では黙って座って聴いているのが普通、質問があれば授業後に聴きに行くの当たり前だが、ドイツ人学生は疑問に思ったことがあれば即挙手し、どんな内容であれ物おじせずに発言する様子には驚かされた。

生活の概要に関するレポート

テュービンゲンは小さな田舎の町だったが、気候も治安も良く、過ごしやすかった。人口の大半が大学生で、道を聞けば親切に教えてもらえた。関わりを持った人は皆穏やかで優しい人たちだったと思う。留学生も多く、街を行き交う人々も国際色豊かで、人種的な差別など嫌な思いをすることも全くなかった。

ここでは、テュービンゲンでの一日の過ごし方を大まかに記述したい。

私の時間割は大体 10 時始まりだったので、朝 8 時頃起床する。WG のフラットメイトたちは朝が遅いので、この時間に顔を合わせることはあまりなかった。人数の多い WG では朝シャワーやトイレの順番待ちで込み合うこともあるそうなので、朝は余裕をもって行動するのがいい。全く知らない人との共同生活は始め大変緊張したが、私のフラットメイトはとても親切で、住み始めは特に何かと世話を焼いてくれたし、1 人部屋のドアを閉めていればプライバシーもきちんと守られた。

私の寮は学校から少し離れていた。30 分に 1 本、目の前のバス停にバスが来る。時間割に c.t. とついている授業は、シラバス記載の時間より 15 分遅く始まり、15 分早く終わる。c.t. ではない授業もあるので、始めのころは混同して遅刻してしまったりした。私はたいてい講義棟や図書館のカフェテリアで、授業前に朝食をとっていた。パンの種類はドイツらしく豊富で、サラダやケーキも売っていた。朝ご飯を食べて授業に出る。同じ授業に登録している韓国からの留学生とよく会ったので、一緒に食事をして分からなかった所を聞き合ったりした。昼食は図書館の向かいの学生食堂で、1 プレート 300 円程で食べられる。スープは日替わりで無料だった。私は食堂奥のサラダビュッフェが好きで、よく利用した

午後の授業は 1 時か 2 時に始まった。私が履修した授業の中には 3 時間のゼミがあり、読み物が多かったので、昼食の後は図書館に行って予習をしていた。授業が終わるともう夕方だった。ドイツの冬は 5 時にはもう日が落ちてしまう。私はとにかく毎週の準備がたくさんあったので、大抵はまた図書館に行って 8 時か 9 時ごろまで勉強していたが、たまに余裕ができたときは友人宅へ行ってご飯を作ってもらったり一緒にテレビゲームをしたり、日本学科で隔週行われる **Stammtisch** に行ったりした。

交通、買い物について補足しておく。テュービンゲン市内の移動は徒歩とバスになる。学期初めにセメスターチケット(定期券)を購入しておく、学期中はバスに乗り放題になる。このチケットは、区画限定で **Deutsche Bahn** でも利用でき、例えば隣町の **Metzingen** のアウトレットモールや、その先のホーエンツォレルン城の最寄り駅までは乗ることができるので便利だった。

買い物は、町の中心部から外れるが、**Kaufland** という大きなスーパーがあり、ここが規模も最も大きく価格も安かったと思う。酒類とグミ、チョコレートの品ぞろえが圧巻だった。他には市内中心部に **Nonnenhaus** という場所があり、バスも通っているので利用しやすかった。またなんといっても旧市街 **Altstadt** には小さなかわいらしいお店やカフェが立ち並んでいるので、ぜひ通ってみてお気に入りのお店を見つけてみてもらいたい。無料 **Wi-fi** が使えるお店も意外とある(ネッカー橋たもとの **Lcafé** 等)ので、特に留学初期には重宝することになると思う。